別紙様式１

平成３０年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）実績報告書

（平成３１年３月）

報告者氏名・所属	古地　順一郎・函館校
研究プロジェクトの名称	人口減少地域における大学と地域の協働関係と人材養成に関する研究―ソーシャルクリニック・モデルの構築に向けて―
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	●古地順一郎・函館校・准教授 根本 直樹 ・函館校・教授 池ノ上真一 ・函館校・准教授 伊藤 泰 ・函館校・准教授 齋藤 征人 ・函館校・准教授 三上 修 ・函館校・准教授 村田 敦郎 ・函館校・准教授 森谷 康文 ・函館校・准教授 藤井 麻由 ・函館校・講師

研究プロジェクトの概要等（研究期間全体）

人口減少が進む地域において、地域と大学が協働関係を築くことで、地域の活性化および地域の創生をすることが求められている。そこで、函館校が今年度から展開しているソーシャルクリニックの実践を通じて、どのような協働関係を築けるのか、そのプロセスを含めて検証する。さらに、大学が有するさまざまな知的資源や人的資源を地域が利用し、地域の課題解決に向けて地域住民が自ら動き始める仕組みづくりに関する研究も行う。また、函館校が中心となって進める国際地域イノベーター人材養成プログラムの開発も行う。

研究実績の概要（当該年度）

１．ソーシャルクリニックの一部授業化

ソーシャルクリニックを本校の教育活動の一部としてより明確に位置づけるため、本校独自の認定資格として本年度からスタートした「HAKODATE コンシェルジュ養成プログラム」の一環で「ソーシャルクリニックと地域」を開講した。この授業の目的は、学生にソーシャルクリニックの存在を知ってもらい、大学生活において地域課題に取り組むことの意義を考えるための授業である。今年度は江差町と函館市での活動を授業内容として提供し、1 年生 28 名が受講した。授業に対する受講生の満足度は高いものであったが、教員の負担が過剰に増えた部分もあり、持続性を確保するための工夫が求められることが分かった。

２．巡回型サテライトオフィス事業の実施

地域のニーズの汲み上げを強化し、大学の知的資源を活用した地域協働の可能性を探るため、道南５地域（渡島南部・北部、檜山南部・北部、函館近郊）でサテライトオフィス事業を実施。具体的には木古内町、八雲町、乙部町、せたな町、北斗市で実施し、近隣自治体も合わせて 54 名が参加した。その結果、函館校が地域振興を担う人材養成を行う大学に変化し、地域課題解決に向けた取り組みを多く行っていることを印象付けることができた。また、今後の大学との協働の可能性についても地域のニーズと意見を得ることができた。

３．江差ソーシャルクリニックにおける実践事例の蓄積

江差町の地域課題に対するニーズに合わせて以下の活動を実施した。

（１）エエまちづくり

より多くの学生に江差町を知ってもらい、学びの場としての関心を持ってもらうことを目的とした企画。今年度はHAKODATEコンシェルジュ養成プロラムの授業である「ソーシャルクリニックと地域」の枠組みの中で実施。第1回は、平成30年5月26日に「江差町まちあるきツア

ー」として実施し、学生29名と教員1名が参加。第2回は、平成30年8月9日～12日の日程で「江差町姥神大神宮渡御祭参加体験」として実施し、学生29名と教員１名が参加。授業として実施することの意義は見出されたものの、引率体制に課題が見られた。

（２）観光まちづくり

ア．DMOの形成に関わる支援

江差版DMOの立ち上げ、データに基づく具体的な行動指針策定（関係人口会議）、道の駅のリノベーション事業、江差いにしえパル街・かもめ島まつりにおける観光動態調査、観光まちづくり事業の効果検証、観光まちづくり協議会へのアドバイザーとしての参加といった支援を行った。また、観光まちづくり事業全体へのアドバイス、データに基づく具体的な行動指針策定に関するアドバイス、DMO人材の育成支援等で間接的な支援を行った。

イ．「江差屏風」を通じた地域資源の再評価に関する研究

江差の価値を町民に再認識してもらうため、「江差屏風」に描かれている動植物に関する研究を行った。その上で、学生による講演会とともに、町民に屏風に描かれている動植物を実際に探してもらい改めてその価値を再発見してもらう活動を行った。また、三上准教授によるスズメとカラスに関する講演会も行った。

ウ．八大龍王神八江聖団に関する研究 _

地域資源の再評価に関する研究の一環として、江差に深く根差し、夏には勇壮なお祭りを繰り広げる神道系の宗教団体である「八大龍王神八江聖団」に関するフィールドワーク調査を行った。具体的には、８月に開催された宵宮祭並遷霊祭、本宮夏季例大祭御神輿渡御祭において学生がフィールドワークを行い、『八大龍王神八江聖団夏季例大祭神輿渡御祭調査報告書』としてまとめた。

エ．法華寺通り商店街再生に向けた活動

地域資源の再評価に関する活動として、昨年度から開始した法華寺通り商店街の再生プロジェクトを実施した。「ソーシャルクリニックと地域」の一環として江差夜市の支援を行うとともに、政策アイデアコンテストでのアイデアを学生が発表し、今年度行う活動に関するワークショップを行った。その上で、江差町の「地域づくり大学連携政策アイデア奨励金制度」を活用し、町民と協働しながら12月に「X'mas party-江差 にサンタがやってくる♪-」と題した子供向けクリスマスイベントを実施し、40名近い参加者を得た。また、学校祭において法華寺通り商店街のブースを出店し、町民の方々のご協力を得ながら、豚汁、アート作品、アクセサリーの販売を行い、来場者から好評を得た。

（３）まちづくりカフェ

今年度も6月から12月にかけて６回のカフェを開催し、３年間の延べ参加者数も730名となった（各回平均40名程度）。３年目の主な取り組みは、会場を町役場庁舎から町内の「皐月蔵」や江差中学校に移し、会場設営なども含めて住民がより主体的に関わる仕掛けを施した。また、これまでの取り組みが住民の互助活動の促進にどの程度貢献できているかの再評価（再診断）を行い、解決策（処方箋）を修正することができた。開始３年間で、ソーシャルクリニックの基本プロセスである、診断→処方→治療が具体化することとり、大学と地域の協働関係が強まってきた。ただし、大学内部での組織的協働の進捗があまり見られないことが課題である。

（４）えさし研修 _

地域創生人材の育成を目標とした研修事業。今年度は応募者がなく新規実施はなかった。しかし、昨年度「誰もが親しみやすい『江差追分』を目指して」で研修を実施した学生が、江差追分関係者を中心に約20名の参加者を前にして6月に成果報告会を行い、江差追分

愛好者の裾野を広げるためのアイデアを提言した。

（５）政策アイデアコンテストへの参加
地域創生人材の育成を目標とした学生の研究活動。地域政策学研究室の学生が、江差町の活性化に向けた政策提言を作成し、「第３回はこだて学生政策アイデアコンテスト」（主催：一般社団法人はこだて地方創生研究会）に２チームが参加。同様の内容は、はこだて高等教育機関合同研究発表会 HAKODATEアカデミックリンク2018でも発表され、１チームが審査員特別賞を受賞した。

２．知内ソーシャルクリニックの実践
今年度は、学校との協働の強化と小谷石地区で活動した。
（１） 学校との協働
昨年度に引き続き、湧元小学校において学校運営協議会委員としてコミュニティスクールの運営に関わるとともに、平成30年度北海道ふるさと教育・観光教育等推進事業として、「まちの観光大使になろう！」という授業を3・4年生に向けに実施した。さらに、5・6年生と合わせて児童を観光大使に任命し、地域資源の発掘、観光パンフレットの作成と設置に向けての動機付けを行った。
　また、知内高等学校では地域創生学習のデザインを同校の教員と本学の複数教員が協働して行い、今年度は１年生向けに１年間のカリキュラムを試行的に開発した。また、カリキュラムの３年化に向けて検討中。

（２）小谷石再生プロジェクト
継続して行われている活動。町内会長の交代に伴い、町役場も交えてこれまでの活動の見直しと今後に向けた企画会議を実施した。その結果、来年度以降に地区に残る民家を資料館、住民のたまり場にするためのインフラ整備を決定したが、町長選のため予算化が見送られた。今後、新町長を交えて改めて企画方針の確認を行う。

３．函館ソーシャルクリニックの実践
（１）外国人雇用に向けた地域協働体制の構築
函館・道南地域における労働力確保の一つの手段として、外国人雇用の可能性を模索してきた中小企業家同友会函館支部との協働事業。昨年度、第三国定住難民受け入れに向けた地域協働体制の構築を行ったことから、その延長線上として外国人雇用に向けた地域協働体制の構築を進めた。外国人雇用に関するセミナーを実施するとともに、本校の「地域プロジェクト」の枠組みの中で、定住外国人向け合同企業説明会の実施に向けた活動を学生も交えて行っている。

（２）五稜郭公園におけるスズメによる盗蜜行動の調査
函館市にとって五稜郭公園のサクラは、重要な観光資源である。しかし、そのサクラをスズメが盗蜜という行動を通じて害することが知られている。そこで、どれくらいの被害があるかを推定を行った。その結果、スズメによって落とされる花の数は、五稜郭公園全体の 0.5%程度であり、問題がないと言えた。そうであれば、逆手にとって、スズメによって落とされるサクラの花、あるいは落としているスズメの姿そのものを観光資源として用いることも考えられる。

（３）「こも巻き」による街路樹におけるアメリカシロトリ駆除効果の検証
アメリカシロヒトリは、北米原産のガの仲間である。現在、世界中に外来種として広がり、街路樹などを食害し問題となっている。北海道へは、気温が低く分布しないと言われていたが、温暖化の影響か、2000 年ごろから函館でも見られるようになった。函館市は、薬剤散布あるいは、食害された枝をまるごと剪定するなど、費用をかけて対策をしている。この問題の解決は、人口が減少するなか、街路樹という環境インフラを維持し、また観光地としての景観を維持するうえでも重要である。そこで、学生らが、安価で安全な対策として、こも巻きによる駆除効果の検証を

行った。こもとは、本来は冬にマツの幹に腹巻のように巻いて、害虫を駆除するものだが、同じ仕組みで、夏に街路樹にこもを巻くと、アメリカシロヒトリの幼虫を捕獲できると考えた。検証の結果、こも 1 枚あたりで、夏に 25.8 匹のアメリカシロヒトリの幼虫を捕獲でき、これは、秋に発生する 6000 匹弱の幼虫を駆除する効果があると推測された。安価で安全な駆除策であるので、函館市の財政の負担軽減になる。この結果は、はこだて高等教育機関合同研究発表会 HAKODATE アカデミックリンク 2018 でも発表され、審査員特別賞を受賞した。

（４）電柱におけるカラス類の営巣調査
電柱にカラス類が巣を作ると、停電が起きる可能性があるため、電力会社は、見回りをし、巣を見つけたら危険を伴いながら撤去を行い、妨害装置を設置している。これには、多くに人的、経済的負担がかかっている。そこで、北海道電力函館支店と協力をして、どのような環境にカラス類が営巣をしやすいのか、明らかにしようとしている。カラス類は、寿命が長く、学習によって対応をしてしまうので、すぐに問題が解決されるわけではないが、見回りの効率化、対策の効率化などにつながると期待できる。

今後の研究プロジェクトの推進計画
・3地域および巡回型サテライトオフィス事業におけるソーシャルクリニックの実践事例を蓄積しつつ、ソーシャルクリニックのモデル化を進める。 ・3地域におけるソーシャルクリニックの実践が、地域の自律的な課題解決力及び人材養成の点から地域と学生にどのような影響を与えているのか検証作業を進める。 ・江差町の各種計画策定に対する支援を行う。 ・江差町の観光まちづくりとＤＭＯ形成に関わる支援を引き続き行う。 ・江差の歴史文化と自然環境の関係性に関する教材開発に関する研究を行う。 _ ・まちづくりカフェの実施支援を行う。 ・知内町・涌元小学校との協働を継続して進めるとともに、知内高校における地域学・観光学の授業開発・実施に着手し、学校教育分野における地学協働モデルの整備を進める。 _ ・中小企業家同友会函館支部との協働を継続し、函館・道南地域における外国人雇用に関する仕組みづくりを支援する。

教育現場や地域での活用等
・江差「まちづくりカフェ」を参考に、 八雲版まちづくりカフェ「まちづくりカフェ」 長万部版まちづくりカフェ「しゃべれ～る」 長万部高校1学年総合的な学習の時間「ふるさと学習～まちづくりプロジェクト」 北斗版まちづくりカフェ「オープンゼミ」 などといったように、道南地域の生活支援体制整備事業や、学校現場の総合的な学習の時間等において、そのノウハウが活用されており、来年度からは上士幌町や函館市内でも、同様の取り組みを展開予定。 ・知内町立知内高等学校の地域創生学習にて、知内町における研究や地域づくり現場での経験を活かしたアドバイス、授業を行った（池ノ上、三上）。 ・知内町立涌元小学校にて、小谷石再生プロジェクトの経験を活かし、学校運営協議会委員を務めるとともに、北海道教育庁による平成30年度北海道ふるさと教育・観光教育等推進事業として、3，4年生を対象に「まちの観光大使になろう！」という授業を実施。 ・こもによるアメリカシロヒトリの駆除は、安全に安価に行える。小学校あるいは中学校で学校単位で実施すれば、市内を広くカバーでき、また体験型の環境教育として活用することが可能である。 ・江差屏風の動植物を読み解く活動は、江差町における総合学習の教材として使える可能性がある。江差屏風は、函館市立図書館のデジタルアーカイブのものを利用でき、児童および生徒に歴史、文化、自然が相互に関係するという視点を学ばせることができると期待できる。

研究成果の公表実績（当該年度）

【著書】

【学術論文】（投稿中も含む）

・齋藤征人（2018）「多様な住民をエンパワメントする地域の互助体制づくりの展開―まちづくりカフェとソーシャルクリニックの試み－」『地域福祉サイエンス』第５号、47-54。

・三上 修・岡本 瑞貴・矢吹 和也・中川 優奈（2018）函館市におけるアメリカシロヒトリの発生状況―街路樹被害状況と防除のため基礎的研究―北海道教育大学紀要. 自然科学編 / 北海道教育大学 編 69（1）49-59.

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

・講演会「迫りくる人材難時代に立ち向かう企業づくりとは～外国人雇用の可能性を探る～Part 2」（北海道中小企業家同友会函館支部・北海道国際交流センターとの共催）、2018.8.30、北海道教育大学函館校、80名。

・阿部拓海・宮原浩・池ノ上真一、季節と交流のダイナミズムからみた暮らしの仕組みに関する研究-江差町における地域資源の再発見と観光への活用を事例として-、2018.10.27、（公社）日本都市計画学会北海道支部研究発表会（札幌）

・宇田共佑・松宮亮・池ノ上真一、函館の景観まちづくりを検証する～市民活動編～、2018.10.27、（公社）日本都市計画学会北海道支部研究発表会（札幌）

・敷田麻実・森重昌之・池ノ上真一、よそ者の地域定住者への変容に関する考察、2019.3.8、知識共創 Vol.99、第９回知識共創フォーラム（金沢）

・中村百恵・喜多村ひなの・小関そよ香・天童佳奈・中村瀬奈・堀川美琴・松岡潤・村上陽菜・山本夏菜子、なろうよ江差っ子―総合戦略から見るまちの未来― 2018年11月10日　はこだて高等教育機関合同研究発表会 HAKODATEアカデミックリンク2018（審査員特別賞受賞）

・藤岡健人・松井うみ、スズメの盗蜜の定量化：盗蜜は五稜郭公園の花見観光に影響するのか？ 2018年11月10日　はこだて高等教育機関合同研究発表会 HAKODATEアカデミックリンク2018（審査員特別賞受賞）

・昔の江差にはどんな生き物がいたんだろう？～「江差屏風」に描かれた生き物たち. 2019年2月23日. 北海道教育大学出前講座（江差）

・三上修　今も江差で見られるスズメとカラス～知っているようで知らない身近な鳥～. 2019年2月23日. 北海道教育大学出前講座（江差）

・まちづくりカフェ Season-3開催状況

2018年度 まちづくりカフェ　Season-3			
回数・開催日	参加者数	回数・開催日	参加者数
第1回 5/9（水）	一般20 学生7 見学1 計28	第4回 10/10（水）	一般27 学生2 見学3 計32
第2回	一般23	第5回	一般29

	6/13（水）	学生6 見学1 計30	11/14（水）	学生10 見学15 計54
	第3回 7/11（水）	一般20 学生3 見学5 計28	第6回 12/12（水）	一般23 学生7 見学44 計74

【テキスト、報告書、研修資料等】
『八大龍王神八江聖団夏季例大祭神輿渡御祭調査報告書』2019年3月31日、50部、北海道教育大学函館校図書館、八大龍王神八江聖団等に配布、配布数40部

添付資料	1.【論文】齋藤征人（2018）「多様な住民をエンパワメントする地域の互助体制づくりの展開―まちづくりカフェとソーシャルクリニックの試み－」『地域福祉サイエンス』第５号、47-54。 2.【論文】三上 修・岡本 瑞貴・矢吹 和也・中川 優奈（2018）函館市におけるアメリカシロヒトリの発生状況―街路樹被害状況と防除のため基礎的研究―北海道教育大学紀要. 自然科学編 / 北海道教育大学 編69（1）49-59. 3.【論文】敷田麻実、森重昌之、池ノ上真一、よそ者の地域定住者への変容に関する考察、2019.3.8、知識共創 Vol.99 4.【チラシ】北海道教育大学出前講座（江差）2019 年 2 月 23 日
ダウンロード可能なドキュメント	1.敷田麻実、森重昌之、池ノ上真一、よそ者の地域定住者への変容に関する考察、2019.3.8、知識共創 Vol.99（http://www.jaist.ac.jp/fokcs/papers/9th/G4_paper_Asami_Shikida.pdf 2.三上修・岡本瑞貴・矢吹和也・中川優奈（2018）函館市におけるアメリカシロヒトリの発生状況―街路樹被害状況と防除のため基礎的研究―北海道教育大学紀要. 自然科学編 / 北海道教育大学 編69（1）49-59. http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/9871
関連URL	北海道教育大学函館校 _地域協働推進の取り組み _ http://www.hokkyodai.ac.jp/info_area/hak.html
問い合わせ先	氏　名：古地　順一郎 電　話： 0138-44-4354 E-mail： koji.junichiro@h.hokkyodai.ac.jp